

第1学年国語科学習指導案

日時 平成17年10月 7日(金)
場所 1年 組教室
児童数 名(男子 名 女子 名)
授業者 田中 悟子

1、単元名 はっきりはなそう(はなす・きく)

教材名 みんなにしらせたいこと

2、指導の立場

(1) 単元(教材)について

本単元は、学習指導要領の領域の中で、以下の目標と内容を具現する学習内容である。

学習指導要領の目標及び内容

目標

(1) 相手に応じ、経験したことなどについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事なことを落とさないで聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる。

内容

(1) 話すこと、聞くことの能力を育てるため、次の事柄について指導する。

ア、知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと。

イ、大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞くこと。

ウ、身近な事柄について、話題に沿って話し合うこと。

1年生で学習する「話すこと・聞くこと」学習の3つの小単元について述べると、まず1番目の小単元「すきなものおしえて」では1学期に一对一で友だちの好きな物を聞き合い、聞き手を意識して分かりやすく話したり、答えたりする学習をしてきた。2番目の単元は、「みんなに知らせたいこと」で、夏休みの出来事の中から、「みんなに知らせたいことを選び、話の順序を考えながら友だちに分かるように話すこと」「話の大事なことを落とさないように興味を持って聞く」ことを学習した。3番目の単元「わたしはなんでしょう」では、「あててほしいものの特徴を聞き手に分かりやすく話す」「大事なことを落とさないように聞く」ことを学習する内容である。(3学期単元)

今回の授業では、2番目の単元の延長上に位置し、日常生活の中で身近に「経験したことなど」の中からお知らせしたいことを話したり聞いたりする学習活動を仕組んできたものである。

上記の目標・内容にある「事柄の順序」ということについては次のように捉えている。大きく言えば、時間的に経験した順序・物事が起こった順序であるが、現段階においては、話したいことを選んだら、そのことについて内容や様子を詳しく話すこと、それも順序意識を養う過程であると捉えている。(なぜならば、子ども達の実態として、例えば、海のことを話す、といっても、帰りにお寿司を食べておいしかった。と、まとめてしまうことも多いからである。)

そのためには、何を話すのかを明確にするために、書くことをさせたいと考えている。書くと、機械的に暗記したり頼ったりということが考えられるが「相手に分かりやすく話すにはそれでいいか、気持ちに通じるか」を考えさせていきたい。また、相手から質問があったときは、書いてあることに頼るわけには行かないので、そこで聞かれたことに答えることができれば、自分の言葉で、しっかり伝え合いができたと思えることができる。聞くほうの力としては質問がなくても、お礼がきちんと言えるといい。

話すこと・聞くことについては、一对一で行う中で、1年生では次のような力をつけたいと考えている。

話すこと

話したいことを選ぶ

話したいことを話型の順序を考えながら3つくらいの文にする

はっきり分かりやすく話せるようにする(技能面で、「口を大きく開ける」)

聞くこと

大事なことを落とさず、興味を持って聞く(目を見て聞き、あいづちをうつなどして聞ける)

質問や反応ができるように聞く(話題に沿って話し合うことができるように)

友だちの良いところを見つけることができる(内容面・話し方面)

(2) 児童の実態

学習にしっかり取り組もうとする子が多く、学習の約束事も少しずつ定着しつつある。しかし、人の話を聞く必要感がうすいと思われる子や、自分が話すときになると口を閉じてしまう子、また話の受け答えがきちんとできない子なども見られるので、話せたり聞けたりできたときはほめるなどして自信につなげていきたいと考えている。また、はっきり話す・しっかり聞くなどお互いのことを思いながら聞いたり話したりするという“相手意識”もまだ薄いので、これからの課題として、手段を講じていかななくてはならないと考えている。

ア、については、知らせたいことを、内容を考えながら分かりやすく話すという力はまだ今後の課題である。相手に分かりやすく話すことも、自信がないと自然に小さい声になるので、口を大きくあけて、はっきりした声で話すことからさせていきたい。イ、については実態から見て、できる力のある子は少ないと考えられる。ひとごとであったり、必要性が感じられなかったりする子を、何とか友だちの話を聞こうという気持ちを持つように高めていきたい。ウ、については人と会話を続けるということに慣れていない子がみられるので、力としてつけていきたいと考えている。

(3) 指導について

聞く・話すの場面を確保するために、朝の会に「スピーチタイム」を設け、クラス全体の前で順にニュースを話してきた。その支援として、「お話花壇」の中から話したいと思う話題の花を選んで話している。また4つの話型を示してそれに当てはめて話すことを通し、話すことに慣れさせてきている。2学期からは、質問をすることも取り入れて、全体の場で方法を理解させている。今の学習を通じて、一対一で話せる“お話島”を取り入れ、少人数でも一人一人が聞いて質問や反応がし合えるようになることを願って進めている。

この小単元の「話す」学習では、まずお知らせを作る活動に取り組みさせる。これは、(1)でも書いたように、3つの色別カードに記入させることによって話すことを明確にさせるためである。この作業は、慣れてくれば必要がないと思うが、個人差に対応する意味でも大事にしたい。発表はこのカードは見ずに「話す」ことをさせていく。「聞く」学習では、一対一で聞くことでしっかり聞かなければ質問ができない。そのことを、聞く心を含めて聞く力を育てることにつなげたい。「話したい・聞きたい」という思いは「自分のことを聞いてもらえた」「友達の話が聞けた」という喜びや自身を味わうことで必要感へと高まっていくと思う。

(4) 研究主題に関わって

研究主題「意欲を持ち、相手に伝わるように、自分の思いや考えを表現する能力の育成」

～話す・聞く領域を中心とした国語学習～

研究内容1「単元づくりの工夫」

子どもの実態と指導内容をふまえ、評価規準を位置づけた単元指導計画を作成する。(5つの言語意識とつきたい力を明確にした単元指導計画を作成する。)

<授業観察での「話す・聞く」の観点>

- ・ 伝えたいことを分かりやすく話しているか。(メモを読むのではなく)
- ・ 声の大きさやはきはき話すことに気をつけているか。
- ・ 大事なことを落とさず聞こうとしているか。(反応・質問など)
- ・ 友達の話を通じて感想がいえたり、よいところを見つけたりしているか。

子どもにとってより目的意識を持った学習課題を設定する方法を具体化する。

- ・ お話会の場を定着し、話す、聞いて質問や反応をする、答えるなどの伝え合いの場を確保していく。この伝え合いに慣れることで相手を自由に見つけあえるようになっていけるとよい。

研究内容2「学習活動と指導・援助の工夫」

つけたい力と子ども達の実態に応じた学習形態を工夫する。

- ・ 一人一人が確実に話したり質問したりできるようにペア学習を取り入れる。相手を変えることも行い別の人に聞いてもらうことで相手意識をより育てたい。

子どもをつまづきに応じた指導・援助を具体化する。(つまづきを予想し解決できる手立てを準備)

- ・ お話の文作りのためにはワークシートを利用させたり、よい文例・悪い文例を示したりする。
- ・ 話す・聞く・反応する(できる人は質問する)・答える・お礼を言うなどの流れを示し、できたことを認めていく。

<話し方・聞き方指導>	
「おねがいします」	
・ 話す	・ 聞く
・ 「終わります。しつもんはありますか。」	・ ある場合しつもんする
	・ ない場合「ありません。~の話をありがとう。」
・ しつもんを受けた場合	答える。
受けない場合	「終わります。」
	(カードを書く)
	「ありがとうございました」

研究内容3「仲間のよさや自己の高まりに気づく評価のあり方」

自己評価の場と方法の在り方を具体化する。

- ・ 話し手として、聞き手としてできたことを、評価カードを通して自覚できるようにしていく。

仲間の学びのよさに気づく相互評価の在り方を具体化する。

- ・ ペアのよいところ、まねしたいところを発表し、よいところを取り入れられるようにする。

3、単元の目標

(関心・意欲)身近な出来事などを友達に知らせたり、友だちの話を聞いたりして、伝え合いを楽しんですることができる。

(話す) みんなに知らせたいことを選び、話の順序を考えながら友だちに分かるように話す。

(聞く) 話の大事なことを落とさないように興味を持って聞く。

(言語事項) はっきりした発音で丁寧な言葉を使って話す。

4、単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く力	ウ 言語についての知識・理解・技能
身近な出来事をみんなに知らせることに意欲を持って取り組もうとしている。	知らせたいことを選び、はっきり「です・ます」で話している。聞く人は話す人を見て終わりまで静かに聞く。	正しい姿勢、はっきりした口の形での発音と、丁寧な言葉遣いで話そうとしている。

5、単元の5つの言語意識

相手意識	目的意識	場面・状況意識	方法意識	評価意識
クラスの仲間 (1対1)	友だちに分かるように口を大きく開けはっきり話す	ミニ発表会という場面で聞き役・話役をする	鉛筆トークで話したり聞いたりする	話すときは分かるように話し、聞いたときは反応しながら聞く

6、単元指導計画

次	時	ねらい	学習活動	評価規準方法	指導・援助
1	1	・日記から題材を選んでお知らせするお話会について知り、意欲が持てる。	・みんなに知らせる方法を知り、話す準備をする。	・知らせることに意欲を持って取り組もうとしている。 ・自己評価	・目当てを示す ・聞き方や答え方についても知らせながら進める。
2	2	・知らせる出来事と内容を、順序意識を持ちながら3つの文に書くことができる。	・知らせたいことを決めて、3つの文を意識してカードに書く。 ・できた人から0の声で練習する。	・3つの順序を捉えて表現している。 ・棒読みでなく自分の言葉で表現している。 ・教師による評価 ・自己評価	・目当てを示す ・話型を通して順序を考え合う。 1) ~したこと 2) 内容・様子を詳しく 3) 感想、 の関係を例示する。慣れている子もいると考える。
3	3	・発表会をすることで聞き手に分かりやすく話したり、大事なことを聞き落とさないようにしながら興味を持って聞いたり反応したりすることができる。	・隣同士(1対1)でミニ発表会をし、お互いに聞きあい伝え合いの方法を知る。	・相手に分かりやすく伝えたか。しっかり聞けたか。 ・自己評価	・目当て作りをする ・伝え合いの手立てを示す ・特にF君・M君・Hさんの様子を見て、援助をする。
	4	・発表会をすることで聞き手に分かりやすく話したり、大事なことを聞き落とさないようにしながら興味を持って聞いたり反応したりすることができる。	・前時とは違う相手(1対1)でミニ発表会をする。 ・全体交流の場も持つ	・相手に分かりやすく伝えたか。しっかり聞けたか。 ・自己評価 ・相互評価	・目当てを確認する(前時と重なる) ・約束の確認

*時間外・・・学級全体できいてほしい人はみんなの前で話す機会を持つ。

7、本時のねらい

お話発表会の中で、分かり易く話したり、大事なことを落とさないように聞いたりする活動を通し、興味を持って伝え合いをすることができる。

8、授業の視点

<p>ペア学習は相手意識を持って話したり聞いたりすることに有効だったか。 相手に分かるように話したり、大事なことを落とさず聞いたりしていたか。</p>

9、本時の展開

	主な学習活動	指導・援助	留意点
導入	今日の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ペアミニはっぴょう会をやって、だ いじなことをはっきりはなしたりき いたりできるようになるう </div>	会の進め方を押さえる 約束を押さえる。	質問の仕方や答え方についても 確認しておく。
課題 化	目当ての確認をする。 <話す人> ・伝えたいことを、ゆっくり、聞こえる 声ではなす。 ・口を大きくあけて話す <聞く人> ・わかりながら聞く ・しつもんできるように聞く。 ミニ発表会をする ・机を向かい合わせて、合図で相手を替 える。	今までの学習の目 当てをカード等で確 認していく。	友達任せにせず、学習の目当て を考えることができたか。(関心・ 意欲・態度) 後で友だちの良いところも言っ てあげられるといいことも伝える。 相手が変わるとき、合図で行い、 あいさつをし合って進める。
課題 追 求	・挨拶「おねがいします」 話す 聞く・質問かお礼 答えか終わりの 合図 挨拶 ・自己評価カードを書く。	グループ毎に様子 を見て、助言や認め をする。	さん さん さんが質問など できなければ共に考える。 2 回相手を替えてお話を進め る。(時間的なことで)
評価	全体交流をする。	友だちのよさを認め 合えるようにしたい。	自己評価・相互評価としての感 想発表